



J Aなんぽろ青年部道外視察研修

6月12日(月)・13日(火)、当JAなんぽろ青年部が道外視察研修を行いました。

今回の研修では、農林水産省職員との意見交換、渡辺孝一衆議院議員への表敬訪問、ならびに国會議事堂の見学を行いました。農林水産省職員との意見交換の際には、平成30年以降の水田活用の直接支払交付金等について説明を受け、盟友が疑問に思っていることを質問し、回答をいただきました。

渡辺孝一議員への表敬訪問の際には、盟友達のこれからの中農について意見を述べ、南幌町の農業について熱く話し合いました。

くみあいだより

J Aなんぽろ



JAなんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南幌町農業協同組合

◇女性部部員視察研修

6月20日（火）、JAなんぽろ女性部

は小樽方面への部員視察研修を開催し、部員70名が参加しました。はじめに「東洋水産株北海道第一工場」にて、マルちゃんでおなじみ『焼きそば弁当』の製造ラインを見学しました。

展示コーナーには歴代の商品から海外の商品などが並び、中には見たことのない商品もありました。

昼食は小樽ならではの季節の食材を使つたお料理を食べ放題の「ツッフェスタイル」で頂きました。店内からは小樽港マリーナや石狩湾の景色を眺めることができ、食事と一緒に景色も楽しむことができました。

午後からは、和菓子作りを体験しました。小樽にある、「和菓子処 つくし牧田」の牧田園子さんからやさしく丁寧に教えて頂き、みなさん初めての体験でしたがとても楽しく作ることが出来たと話していました。最後に小樽市内を自由に散策し、小樽の街並みを眺めながら買い物を楽しみました。

今回の視察研修は天候にも恵まれ、日頃の疲れを忘れてゆったりと楽しく過ごすことができました。



▲ マルちゃんの工場で集合写真。



▲おたる運がっぱの和菓子。
可愛くできました！

蔬菜類出荷目慣らし始まる



▲ ピーマンを手に持ちながら説明を受ける部会員



▲ ブロッコリーを手に取り確認する部会員

6月中旬より、ピーマン、ブロッコリーの出荷目慣らし会が行われました。6月13日（火）、野菜等集出荷センターで行われた、ピーマン出荷目慣らし会では、部会員がピーマンを手に持ち、(株)札幌ホクレン青果等の職員の話を聞きながら出荷規格を確認し、出荷要領の変更点の説明を受けていました。

また、6月16日（金）に野菜等集出荷センターで行われた、ブロッコリーの目慣らし会では、平成29年度の市場情勢および出荷について説明された後、部会員が自らブロッコリーを手に持ち出荷規格や品質等を確認していました。



▲ 作業のやり方や生育状況を皆で確認！



▲ 生育は順調！



調査結果は、目標出芽本数150本／㎡に対し、平均180本／㎡と、全地点で順調な生育を示しました。参加した生産者は自身の圃場説明や他の生産者へ質問を行なうなど、「良い情報共有の機会になった」と話していました。今後引き続き、生育期節ごとに調査を行なう予定です。

6月16日（金）、町内の水稻直播栽培圃場で出芽調査を行いました。本年の水稻直播は、湛水が4件、乾田が3件、合計7件約26haで栽培されています。調査は普及センター南西部支所と協力し、生産者6戸とともに各自の圃場を巡回する流れで行ない、町内7地点の生育状況を確認しました。

6月5日（月）、当JA事務所で火災避難訓練が行われました。今回は、JA2階喫煙所からの出火が原因というケースで避難訓練が行われました。当日は、職員が自ら避難を呼びかけ、1人1人自分の担当する役割を果たしながらスマーズに行われました。

南幌消防署職員からは、「田舎から、身の回りのコンセントやたばこの吸い殻等には注意してください」と話されました。

その後、新入協職員3名を含む、職員5名で実際に火を使いながらの消火器訓練が行われました。

お互いの生育を確認！水稻直播圃場巡回



▲ 南幌消防署職員から話を受けている風景



▲ 消火訓練を行う田中職員（資材課）

火災避難訓練実施

発行者
JAなんば青年部
編集責任者 石川 卓也

高校生に農業の魅力を教える

6月8日（木）、当青年部は、岩見沢農業高校へ行き、農村ホームステイ事業の講義を行いました。農村ホームステイ事業とは、名盟友の家に学校の先生を招き、農家の1日を体験していただくと

いうものであり、講師は、森口育民氏（栄進）と米田昌樹氏（有NOAH・栄進）が務め、岩見沢農業高校の生徒約25名に講義を行いました。

講義は、農村ホームステイの1日の流れや感じたこと、先生からの感想を具体的に体験談を交えながら行われました。

最後には、「高校生に伝えたい」として、「農家の仕事を1回は見に来てください」「仲間をたくさん作り、自分のスキルアップにつなげてください」と高校生に熱い言葉を送りました。



▲ 講義を行う森口氏（栄進）



▲ 講義を行う米田氏（有NOAH・栄進）



▲ 南幌町の紹介をしている盟友達



▲ 畑の学校参加者と農作業を行う盟友



▲ 1日の雨の中作業を行う盟友達

両日ともに、多くの盟友が参加し、農作業体験者と交流を深めながら作業を行いました。また、作業の開始前には、盟友より南幌町と青年部の紹介や当日の作業の紹介をパソコン班が作成した資料をもとに説明しました。

今後も、「むぎ組」「もち組」「まめ組」の3回の作業に参加する予定になつており、食育・青年部のPR活動を行つていきます。

作業内容は、荷降ろしや積込み、車両の誘導など産業廃棄物の適正処理等を行い、盟友達は懸命に作業を行つていました。

1日目は、悪天候で盟友達は雨に打たれながらのとうきびの間引きとかぼちゃの摘心・整枝等の作業を行いました。24日（土）は、「きび組」の間引きが行われました。作業でしたが、2日目は天候に恵まれ、逆に大変暑い中での作業でした。

農作業を通じて交流

6月17日（土）、24日（土）、食育班の事業として、ホクレンくるるの杜で開催されている「畠の学校」の農作業体験に参加しました。

17日（土）は、「2年1組」の農作業に参加し、とうきびの間引きとかぼちゃの摘心・整枝等の作業を行いました。24日（土）は、「きび組」の間引きが行われました。

廃農。ボリ・ビニール回収に協力

6月22日（木）・23日（金）の2日間にわたり、野菜等集出荷センターで廃農。ボリ・ビニールの回収が行われ、盟友7人が参加協力しました。

1日目は、悪天候で盟友達は雨に打たれながらの



▲ 2日の暑い中作業を行う盟友達

南幌産小麦を使用した素麺『天恵の糸』が エーコープなんぽろ店で販売開始

大手百貨店の高島屋で「夏のお中元ギフト」商品として全国販売が開始されてから3年目を迎える南幌産小麦を100%使用した素麺「天恵の糸」が、本年からエーコープなんぽろ店でお中元ギフトとして店頭で販売されます。ぜひ、地元ギフトのひとつとして、夏のお中元などにご利用ください。

香川県小豆島で作られており、特徴は、つるつるとした食感の『つるきち』、弾力を持つ『はるきり』、冴えた白さが特徴の『きたほなみ』これら3種類の南幌産小麦を絶妙にブレンドしたコシのある喉越しの良い素麺です。

お買い求めは、エーコープなんぽろ店のほか、高島屋オンラインストア（パソコン・スマートフォン）からもご購入可能です。

■エーコープなんぽろ店取扱商品（価格は税込）

| | |
|------------------|----------------|
| 小豆島手延素麺「天恵の糸」寒作り | 50g×16束 3,240円 |
| | 50g×13束 2,700円 |

■高島屋オンライン取扱商品（価格は税込）

| | |
|---------------------|--------------------------|
| 小豆島手延素麺「天恵の糸・匠」極寒作り | (50g×2)×10 5,400円（高島屋限定） |
| 小豆島手延素麺「天恵の糸」寒作り | 50g×28束 5,400円 |
| | 50g×22束 4,320円 |
| | 50g×16束 3,240円 |
| | 50g×13束 2,700円 |



JJA北海道大会実践フォーラム

～パネルディスカッション～

テーマ「道民と食と農でつながる

サポートー550万人づくに向けて」

「道民と食と農でつながるサポートー550万人づくに向けて」と題したパネルディスカッションの内容を3回シリーズで紹介します。

しごとじうことに地元の人が気付いていないのは、という意味で「道産子は道産子であること」にあぐらをかいている」と言い続けています。そんな道外から見た北海道という点にも意見したいと思います。今日は頑張りますのでよろしくお願いします。

思います。

とは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売るのは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思います。その意味で建設的な議論に加わりたいと思います。

高橋 さやか 氏
食育フリーマガジン
mōmāmō 編集長



宮入 隆 氏
北海学園大学 教授

宮入です。550万人サポートーづくりは、チャレンジングなテーマですが、既に色々な取組みがあります。それをどう見せるか、どう手を付けるか、今日はそのヒントを見出していくければと思います。

早速ですが、今日参加頂くパネリストの皆さんに自己紹介と今日の意気込みをお話し頂きます。

「mōmāmō」というフレームガジンを発行している高橋と申します。この冊子はレシピを中心に生産者の情報や、旬の食材、子どもと食に関するお悩み等を載せた、ママ向けの食育情報誌です。

本日は消費者の一人として、また3歳の娘のママとしての目線で色々お話しできればと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。



高橋 優 氏
JJAきたみらい 常務理事
(事例発表者)



森川 純 氏
北海道新聞社 講説委員



森川 純 氏
北海道新聞社 講説委員

高橋 和則 氏
JJA北海道中央会
総合企画部長



高橋 和則 氏
中央会総合企画部の高橋と申します。私どもの部署は大

活動している河野真也と申します。僕はあぐり王国北海道という番組の取材経験から得た、一般の方よりは農家さんに近い目線、また1歳の息子がいる父親の目線でもお話ししたいと思います。大阪出身の僕は、「北海道が素晴らしい」と思っています。

オクラホマところのコンビであります。僕はあぐり王国北海道という番組の取材経験から得た、一般の方よりは農家さんに近い目線、また1歳の息子がいる父親の目線でもお話ししたいと思います。大阪出身の僕は、「北海道が素晴らしい」と思っています。

ことは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売るのは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思います。その意味で建設的な議論に加わりたいと思います。

と思います。

とは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売るのは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思います。その意味で建設的な議論に加わりたいと思います。

河野 真也 氏
タレント



河野 真也 氏
タレント

ことは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売るのは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思います。その意味で建設的な議論に加わりたいと思います。

と思います。

とは言え政府への意見は別としても、消費者を意識して農産物をつくり、売るのは大事であり、それが北海道の産業の発展に繋がり、地域を支えると思います。その意味で建設的な議論に加わりたいと思います。

宮入教授 それでは、きたみらいの事例を参考にしながら、各々思ったことをお聞かせ頂きたく思っています。

河野氏 事例の内容やホー

ムページを見て、「こんなに

色々なことをやっているの

かと驚きました。同時に、

今まで知らなかつたなど

思つたんですね。ちなみ

に高橋常務、ホームページ

とフェイスブック以外には何かやられているのです



二ティーオー誌を、年に3回発行しております。

河野氏 なるほど。ソポーターになつてもうた
め550万人の道民に向けてやるのはもちろんですが、
その上で僕がいいなと思うのは、道外のファンをつ
くる取組みです。僕は先程「道産子は道産子であ
る」といあぐらをかいていた」と言いましたが、僕
は北海道に来て野菜の美味しいことに驚きました。普
通に売られている野菜が美味しいのですが、北海
道の人にとっては美味しくて安心安全なものが当
たり前です。当たり前と思っていたものの良さに気
付かせる」とは中々難しいと思います。だから道
外のファンを増やして、そこが盛り上がる」とによ
り、北海道の人にも、北海道つすごいね、自分
達も応援しなきゃと思わせるような取組みも必要
だと思いました。

宮入教授 たくさん取り組んでおられるけれども
知られていないという点は、これは今日のディス
カッションの中でも一番求められている課題だと思
います。それでは続いて、高橋さんお願いします。

高橋さやか氏 今は何でもスーパーで手に入る時
代ですので、生の体験で食への意識が変わると思
います。また、私も先程の事例発表で初めて、色々
な取組みを知ったので、情報が届かない現状を感
じました。

例えば、50代の会社員と30代のママとでは見る
ものや求める情報も違うので、伝える相手や起
して欲しい行動に応じて情報発信を工夫する必要
があると思います。

宮入教授 実際、フリーマガジンで情報発信をす
る高橋さんの立場で、具体的な情報の流し方に関
するアイデアがあれば教えて頂ければと思うので
すが。

高橋さやか氏 例えば会社員なら新聞がメインだ
と思いますが、子育て中のママならやっぱり児童会
館での口コミや、SNSですね。相手によって伝
え方を工夫していくのは大
事だと思います。

宮入教授 地域には多様な
年齢層、考え方の方がい
らっしゃると思いますが、
高橋常務が実際現場で取り
組まれている伝え方の工夫
はどう思いますか。



高橋常務 誰に伝えるかと
いう点がぼやけていること
は多いです。これからは伝
える相手が誰か、そして伝
え方の工夫も必要と感じま
した。情報はインターネット
や広報誌でも伝えていま
すが、直接人が出向き伝える活動もしています。

例えば鹿児島は、豆を多く食べる地域であり、生
産組織の皆さんによる現地での販売も行っており
ます。これも行って初めて分かったことなので、人
が出向く活動は増やしたいと感じます。

理事会報告

6月
12日

6月理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【報告事項】

- 平成29年度米麦生産出荷懇談会の開催日程にについて
定款第54条第3項の規定による理事と組合との取引の承認について
固定資産の取得について

練習の成果を



▲ タイムリーヒットを打った木村職員



◆ 力投する犬養職員（資料課）

6月23日（月）、当つゝA野球部が空知管内JJA野球大会に出場しました。本年は南幌・長沼・由仁の各球場で行われ、当つゝAは南幌町営球場

初戦は昨年のJA野球大会で試合を行い、大敗を喫してしまったJAピンネが対戦相手でした。当JAは試合開始直後よりチャンスを作り、

木村聰眞（販売推進課）のタイムリー・ヒットなどで3点を取るもの、回を重ねる」と相手に点数を取られ、最終的には4対11という大差で敗れてしまいました。

・6月中旬には、青年部の東京への道外視察研修、下旬には女性部の小樽方面への視察研修があり、私は、両方の研修に参加させて頂きました。両団体の研修の内容は違いますが、多くのことを学ぶことが出来たのではないかと思います。

また、私も勉強になる場面がいくつかる場面がいくつかあります。

つたと感じています。

編集後記

私達の JA

平成29年5月末日現在

| | |
|---------------|---------------|
| 組合員 | 2,823名 |
| (前年同期比) | ▲28名) |
| 正組合員 | 479名 |
| (前年同期比) | ▲28名) |
| 准組合員 | 2,344名 |
| (前年同期比) | 0名) |
| 正組合員戸数 | 304戸 |
| (前年同期比) | ▲10戸) |